



# 教育新報

第184号

Gateway for All  
学びの扉を開けよう！



教育学部同窓会副会長  
小泉 浩彰

「大金星 強豪ドイツに2対1」  
サッカーW杯カタール大会、日本が初戦で『ドーハの歓喜』を演じました。この地は、約30年前に『ドーハの悲劇』の舞台にもなった場所でした。

私が中学3年生時のW杯では、エース・ケンベスが得点王となり、地元アルゼンチンが初優勝したことを思い出します。その頃の日本は、韓国・マレーシア・シンガポールに勝てず、W杯出場など想像もつきませんでした。

新採用1校目ではサッカー部創設の要望が地域から出されました。2校目では担任した中学3年生が「卒業後サッカーで海外へ行こうかな」と相談されましたが、詳しく話を聞くこともしなかったことを思い出します。その年の5月にはJリーグが始まり、5年後には日本はW杯初出場を果たしました。

世界に対する自分の価値観を押し付けたり、子どもの可能性を狭めたりした苦い経験です。

予測困難な時代に、教師に求められるものは何でしょうか。

同窓生の集いで、前新潟市教育長前田秀子様の演題は『合言葉は、明るく前向きに！しなやかにたくましく』でした。御講演の中で何度も『仕事は楽しく』と言われておられました。これまでの授業では目標実現のために「何を学ぶか」に主眼が置かれてきました。しかし、現学習指導要領では、加えて「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」が重視されています。

令和元年末から始まったGIGAスクール構想。一人1台端末末によって、誰もが何時でも世界と繋がることができます。GIGAはGlobal and Innovation Gateway for Allの略。これからの教師に求められるのは、児童生徒一人一人が、「Global（地球規模）」と「Local（地域的）」な視点で、自分ごととして考え、「Gateway（学びの扉）」を自ら開けるための支援をすることでしょう。そのために、同窓会を通じて、学ぶことの本当の楽しさについて、一緒に考えていきましょう。

## 花鳥風月

サッカーワールドカップがカタールで開催され、日本が予選グループの初戦でドイツに勝利を収めた。これまで4度の優勝を誇るドイツに、日本が勝つのは容易ではないと言われていた。しかし日本は、この一戦に向けてしっかりと対策を立て、準備してきたことで、強豪ドイツに2対1で逆転勝利することができた。

努力し続けることや結束すること、情報を収集し活かすことなど、一つの試合に向けて準備をすることが大切さを感じ取ることができた。コロナ禍で、教育現場では教育活動を進めるのに様々な制約を受けている。授業や各種行事なども、まだ以前と同じような活動を行うことができない場面も見られる。子どもたちにとって、どうすればよりよい教育活動を行うことができるのかを常に考え、試行錯誤しながら最善の方法を導き出して取り組んでいる。これからも「子どもたちの笑顔のために」しっかりと準備をし、教育活動を進めていきたい。

（広報部 高橋 新一）

情報交換

情報発信

新潟大学  
教育学部同窓会  
ホームページ



大学の  
コーナー

コロナ禍と読書

新潟大学教育学部教授

足立 幸子

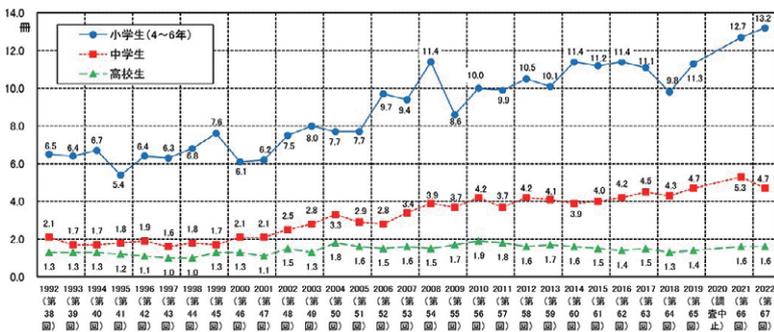
私は、新潟大学教育学部で国語科教育法を担当し、特に読書教育・読書指導を研究しています。皆さんからよく聞かれるので、コロナ禍が読書に与えた影響について考えてみます。

まずは自分自身の読書体験について述べます。二〇二〇年の初め、私には急に本が色褪せて見えました。特に教育・経済・社会の本について「この考え方はこれからも通用するののか」という疑問を強く持ちました。しかしその後、小学生の時に読んだ歴史マンガの本で、天然痘が流行し聖武天皇が奈良の大仏を建立することを描いた場面を思い出し、「今ならこの場面の意味がよく分かる」と考えました。以前読んだ『銃・病原菌・鉄』（上・下）（ジャレド・ダイアモンド、倉骨彰訳、草思社、二〇一二年）や『ペスト』（カミュ、宮崎嶺雄訳、新潮社、一九六九年）も、以前とは異なる感覚で再読しました。つまり現実を前に、反対に色鮮やかに読める本があったわけです。新たに緊急出版された『白い病』（カレル・チャペック、阿部賢一訳、岩波書店、二〇二〇年）も面白く読みました。このように、コロナ禍は私に、読書の再発見と新しい読書をもたらしました。では、児童生徒の読書はどうでしょう

うか。二〇二〇年三月～五月の休校期間中、児童書の売れ行きが伸びたと聞きました。確かに保護者からすれば、読書は推奨できる活動だったかもしれない。しかし一方で、しばらくは公共図書館や学校図書館が休館したり開館時間が短くなったりし、児童生徒が読書に取り組みにくい状況になりました。二〇二〇年度・二〇二一年度は、私が顧問である新潟アニマシオン研究会は、会員のボランティアが学外者であるという理由で「読書へのアニマシオン」という読書活動を学校に届けられなくなりました。つまり、児童生徒の読書をトータルでとらえると、コロナ禍はポジティブとネガティブの両方の要素を含んでいたと言えます。児童生徒の読書は、決して個人の趣味や努力のみの結果ではなく、学校・社会環境や大人の支援の上に成立するのです。統計を見て見ましょう。下のグラフは、毎日新聞社と全国学校図書館協議会が行っている学校読書調査における五月一か月間の読書冊数の変化を示したものです。最も知りたい二〇二〇年は調査が行われませんでした。二〇二一年・二〇二二年は、概ねコロナ禍以前よりも増加しているように見えます。『学校図書館』二〇二二年

一月号に掲載されている五月一か月間の雑誌の平均読書冊数も、一九九〇年代からずっと減少が続いていましたが、二〇二一年・二〇二二年は少し増加しているようです。つまり統計的には、コロナ禍を契機として、児童生徒は以前より読書を行うようになったと言えます。

過去31年分の5月1か月間の平均読書冊数の推移



さらに、コロナ禍と関連してとらえなければならぬのはデジタル読書です。ご存知のとおり、GIGAスクール構想が前倒しで実施され、全国の学校現場にタブレット端末が導入されました。先の学校読書調査では、毎年ではありませんが、デジタル読書についても聞いています。同じく『学校図書館』二〇二二年一月号に掲載された調査結果を見ると、「スマホやタブレットなどを使って読書をしたことがある」と答えた児童生徒の割合は、第六四回（二〇一八年）↓第六六回（二〇二一年）↓第六七回（二〇二二年）調査の順に並べると、小学生（四～六年生）は三二・三％↓三五・九％↓三六・六％、中学生は四五・九％↓四七・一％↓五二・八％、高校生は五二・三％↓五八・〇％↓六一・〇％と、いずれの校種においても増加しています。増加はしていますが、この結果を多いと考えるか少ないと考えるかは、意見が分かれるところかもしれません。少ないと考えるのなら、読む物がまだ少ないのかもしれない。大人用の電子書籍は増えてきました。冒頭に紹介した私の読書体験でも、再読には電子書籍を用いました。しかし児童生徒用のデジタル読書コンテンツは、まだ少なく、もつと増加させる必要があるでしょう。今後そのように児童生徒のデジタル読書環境を整えられれば、コロナ禍は児童生徒の読書にポジティブな影響を与えていると言えるのではないのでしょうか。



「合言葉は、明るく前向きに！  
しなやかにたくましく！」

ここ二年間、「同窓生の集い」を実施できませんでした。今年度は何とか実施の方向で検討し、以前からお願いしていた「前教育長前田秀子様」より講演をいただくことができました。演題「合言葉は明るく前向きにしなやかにたくましく」それは前田秀子様が教育長になってからキャッチフレーズのようにずっと伝えてきた言葉です。明るく前向きな教育委員会、職員には明るく前向きな気持ちで仕事をしてほしい。しなやかにたくましい子供たちを育ててほしい。そして教職員も事務局も職員もみんながしなやかにたくましくなっていきたい。そんな思いで取り組んできたそうです。紙面の



都合で、全部はお伝えできませんが講演の一部をご紹介します。柏崎のご出身で、同窓生でいらっしやいます。長岡分校に入学され三年生から新潟キャンパスに来られたそうです。大学時代は硬式テニスサークルに所属して大学生活を謳歌しておられました。当時、卒業後のことはあまり考えておらず、教員採用試験を受け採用通知をいただいたところで辞退したとのことでした。何か他に別にやりたいことがあったわけはなかったとのこと。またアルバイトをしていた時に、市役所に就職している方に市役所の話を聞いて採用試験を受けてみようと思つて、合格して勤務することになったそうです。市役所では一般職として三十四年四か月。特別職として六年お勤めされました。十三の職場を経験されたとのこと。すごく楽しかったと思える職場は仲のよい仲間がいて一緒に遊ぶことも多かったそうです。あの上司からは、大きな声で笑うということ、ガハハと親しみを込め

て呼ばれていたそうです。課長になってからはずっと職員に三つのお願いをしていたそうです。一つめは仕事は楽しくやりましょう。やらなければいけない仕事なので楽しんでやった方が嫌々やるよりもよい仕事ができると思うし、みんながガヤガヤやったりするとよいアイデアが生まれ時間が経つのも早いと考えていたからです。二つめは、困った時、自分で無理だと思つた時は一人で抱え込まないで周りの誰でも相談してくださいと伝えたいそうです。仕事は一人でやるものではなく組織としてやるもの。直属の上司でも誰にでもいいので速めにSOSを出してみんなで解決しましょうと伝えられたそうです。三つめは、ワークライフバランスを考えてください。というお願いです。家庭も仕事も自分自身も大切にしてください。自分のバランスもそうですし、周りの人のバランスも尊重してお互いの気持ちと感謝の気持ちを持つてください。と話したそうです。この三つのお願いをした後は、職員がのびのびと仕事ができるように、明るくて何でも話せるように風通しのよい職場の雰囲気作りを心がけたそうです。何よりご本人自身が楽しく仕事をさせてもらったとおっしゃっていました。

また、まだたくさんのお話がありましたが、最後に子ども達が笑顔になるにはやっぱり私たち大人が笑顔にならなくてははいけませんと締めくくられました。あつという間の時間でありました。前田秀子様の人柄と笑顔に引き込まれるとても素敵なお話をいただきました。ありがとうございました。

(文責 研修部長 坂内 徹)

## 第四十七回 同窓生の集い実施報告 講演会

○講師 前田 秀子様  
○演題  
合言葉は、明るく前向きに！  
しなやかにたくましく！

都合で、全部はお伝えできませんが講演の一部をご紹介します。柏崎のご出身で、同窓生でいらっしやいます。長岡分校に入学され三年生から新潟キャンパスに来られたそうです。大学時代は硬式テニスサークルに所属して大学生活を謳歌しておられました。当時、卒業後のことはあまり考えておらず、教員採用試験を受け採用通知をいただいたところで辞退したとのことでした。何か他に別にやりたいことがあったわけはなかったとのこと。またアルバイトをしていた時に、市役所に就職している方に市役所の話を聞いて採用試験を受けてみようと思つて、合格して勤務することになったそうです。市役所では一般職として三十四年四か月。特別職として六年お勤めされました。十三の職場を経験されたとのこと。すごく楽しかったと思える職場は仲のよい仲間がいて一緒に遊ぶことも多かったそうです。あの上司からは、大きな声で笑うということ、ガハハと親しみを込め

て呼ばれていたそうです。課長になってからはずっと職員に三つのお願いをしていたそうです。一つめは仕事は楽しくやりましょう。やらなければいけない仕事なので楽しんでやった方が嫌々やるよりもよい仕事ができると思うし、みんながガヤガヤやったりするとよいアイデアが生まれ時間が経つのも早いと考えていたからです。二つめは、困った時、自分で無理だと思つた時は一人で抱え込まないで周りの誰でも相談してくださいと伝えたいそうです。仕事は一人でやるものではなく組織としてやるもの。直属の上司でも誰にでもいいので速めにSOSを出してみんなで解決しましょうと伝えられたそうです。三つめは、ワークライフバランスを考えてください。というお願いです。家庭も仕事も自分自身も大切にしてください。自分のバランスもそうですし、周りの人のバランスも尊重してお互いの気持ちと感謝の気持ちを持つてください。と話したそうです。この三つのお願いをした後は、職員がのびのびと仕事ができるように、明るくて何でも話せるように風通しのよい職場の雰囲気作りを心がけたそうです。何よりご本人自身が楽しく仕事をさせてもらったとおっしゃっていました。

教育長になってから大変なことがいくつもありました。その一つが新型コロナウイルス感染症への対策です。「本心に忘れもしない二〇二〇年二月二十七日夕方」全国の学校へ一斉休業要請をするというニュースを見てびっくりしたそうです。休業には明日金曜日一日しかなない。情報もない中で校長会等と連絡を取り、休校を決定したそうです。その後新学期からは学校を再開したいと考え、学校再開のためのガイドライン作りを始めたそうです。感染予防に十分注意して通常通りやるのが子どもたちの心身の成長にとって一番と考えていたそうです。しかし再度緊急事態宣言が出て休校となります。その時は三月の反省を踏まえて準備をしたそうです。その後緊急事態宣言が前倒しで解除されましたが混乱を避けるために、分散登校等の皆さんの準備をして、通常通りの再開を目指したそうです。

(3)

# 全学同窓会交流会報告

広報部 若月 利春

令和四年度新潟大学・新潟大学全学同窓会交流会が、十月十五日（土）に、ANAクラウンプラザホテル新潟二階「芙蓉」で開催された。

本会は、一昨年度は中止、昨年度はオンライン形式での開催であったが、今年度は感染防止対策を徹底して対面での開催となった。

今年度は、農学部同窓会が幹事となつて計画、運営に当たり、記念講演と特別企画が行われた。

開会の挨拶では、牛木辰男学長から、令和三年二月に掲げられた本学の「将来ビジョン2030」について、「自律と創生」の理念の基、本学が「未来のライフ・イノベーションのフロントランナー」となるということが向後一〇年間のミッションになると語られた。



記念講演では、石本酒造株式会社常務取締役であり新潟清酒学校校長の渡邊健一氏より、「新潟の酒はなぜ美味しい」と題して、新潟清酒の現状や

新潟の酒造りの特徴等についてご講演いただいた。

新潟は、一県としての酒造所数、吟醸酒の出荷量、清酒一人あたりの消費量等で全国一である。気象条件や

水、米、醸造技術等、酒造りに好適な条件が揃っていることが、美味しい酒の背景となつているということを学んだ。

特別企画では、朝日酒造株式会社総務部参与の新野義弘氏より、「ミニ唎酒コーナー」をしていたいただいた。

「蛇の目」と呼ばれる青い二重丸が底に描かれた唎猪口を使い、いきなり飲まずにまず目で見て楽しむ、次に鼻に近付けて室温で温まった香りを楽しむ、そして口に含んで楽しむ、最後に吐き出して後味を楽しむという、唎酒の手順。また、「良いお酒をたくさん飲むこと」という唎酒のコツを教えてくださいました。



# 教育学部・教育実践学研究科との懇談会報告

交流部部长 永井 高志

1月19日（木）夕刻、新潟市中央区の「アートホテル」を会場に、「新潟大学教育学部並びに教育実践学研究科教員・職員と同窓会本部役員との懇談会・懇親会」が行われました。

毎年、同窓会交流部が企画・運営を行う事業ですが、新型コロナウイルス感染症により、今年度3年振りの開催となりました。関係の皆様からご参加いただき、相互の願いや今後の方向性を共有する、有意義な会合となりました。学部並びに教育実践学研究科からは、ご多用の中、藤林紀枝学部長様・高木幸子教育実践学研究科長様を始め、10名の教員・職員の皆様からご出席をいただきました。また、同窓会からは、白杵勇人会長以下14名が出席しました。懇談会では、白杵同窓会会長による

開会の挨拶に続き、藤林学部長様並びに高木教育実践学研究科長様から、学部や教育実践学研究科の現状等についてお話しをしていただきました。その後、同窓会の各専門部等（事務局・研修部・広報部・組織部・交流部・全学同窓会）から今年度の事業の概要について報告を行いました。最後に、小泉同窓会副会長から「母

校の発展のために、ますます充実した活動に取り組んでいきたい」との挨拶で、懇談会を閉じました。

引き続き、同会場での懇親会は、白杵会長の開会の挨拶、柳沼宏寿副学部長様からの乾杯のご発声で開宴となりました。懇談会で出された教育学部並びに教育実践学研究科の現状やこれからの期待、カミングホームデイのさらなる充実等について語り合い、学部並びに教育実践学研究科と同窓会との懇親を大いに深めることができました。相庭和彦教育実践学研究科副科長様から、学部並びに教育実践学研究科と同窓会のさらなる発展への思いを込めて、万歳をいただきました。最後に、小林同窓会副会長の挨拶で閉会となりました。

なお、カミングホームデイについては、3年続けて中止となっております。来年度こそは、是非多くの卒業生の参加を得て開催したいと、心より願っています。



# 会員の広場

## 理科の先生、書写の先生



魚沼市立小出小学校

藤木 雄大

今年度、担任をもたず、理科専科として入教で授業をすることとなった。担任をもたないことで、児童と苦楽を共にするやりがいも薄くなってしまう。

しかし、専科として自分の力を活かせる場合は、職場としてやりがいを感じている。薬品や教材などを各班に行き渡るようにしたければ、準備にそれなりの時間を要してしまう。専科であれば、教材準備を担当外のクラスの分もでき、学級担任の方からいたたく「助かる」の言葉が今やりがいを感じる瞬間でもある。

また、特別支援学級に書写の担当としても入教している。普段賑やかな児童たちが集中して取り組む瞬間に嬉しさを感じながら過ごしている。

二、三階は理科の先生、一階は書写の先生として廊下を歩く。

様々な面で全校の児童と関わっている現状を前向きに捉え、学校運営の一員として携わっていききたい。

## 通制度



村上市立村上小学校

皆川 香織

昨年度、**①**登録教員として一年間通級指導等担当研修を受講させていた。この研修は、通級指導教室の担当者の指導の下、具体的な仕事を通して、通級指導に必要な技能等を学ぶものである。

私は、村上小学校の通級指導担当者にご指導していただいた。授業を参観させていただいたり、指導に関わる講義をお聞きしたりした。

四月当初は、ご指導いただいても、用語が理解できず、「ゼツ?」「コーコーガイ?」と、全て魔法の呪文のようだった。そこから、一つ一つ私のペースに合わせてご指導いただき、年度末には実際に授業を担当させていただいた。得るものが大きい、充実した楽しい一年間だった。ゼロから指導してくださった先生には感謝しかない。

通級指導に関心のある先生方にもっとこの制度を知っていただきたく、ここに記させていたいただいた。

## わかめ作業のご紹介



粟島浦村立粟島浦中学校

久保 智音

令和4年の4月に粟島浦中学校に赴任しました。あまり粟島浦小中学校についてわからない方が多いのではないかと思います、この場をお借りして本校のある学校行事について紹介させていただきます。

GWに観光客に向けて披露するしまつこソーラン、島の郷土料理「わっぱ煮」を楽しむわっぱ煮会、定置網漁を体験する大謀網漁など、当校には島ならではの行事が多くあります。その中でも年間を通じて行う行事が「わかめ作業」です。地元の漁師さんに協力を依頼して海でわかめを育てています。11月に海に入れた胞子が翌年の4月には大きく育って収穫されます。収穫されるわかめの量には目を見張るものがあります。収穫作業を通して児童生徒職員、島の皆さんが仲を深めていく大切な行事です。

粟島は自然豊かなとてもいいところです。絶景と美食が皆さんを待っています。ぜひ粟島に遊びに来てください。お待ちしております。

## 生命力にリスペクト



新潟市立東曾野木小学校

小林 健太郎

久しぶりに新大のそばを通ると、今は閉店してしまったあの店のカツ丼が無性に食べたくなったり、自分が住んでいたアパートが今もあるか確かめられたりします。

卒業して随分経ち、理科を担当することが増えた。自然相手の学習は思い通りにならないがワクワクする。

夏休み、一人一本ずつ大切に育てているひまわりが横倒しになり、こともあろうに成長のいいひまわり数本が支柱の先から皮一枚だけつながらって折れた「終わった」と思うと同時に、子どもの顔が浮かんできて「最善を尽くさねば」と思った。人間と同じようにテーパーングして固定して神に祈った。

数日後、なんとテープイングしたひまわり全てに花が咲いた。ひまわりの使命力にびっくりした。悲観して諦めなくてよかったと思った。

諦めずに信じる。リスペクトする。教育にもつながることだと実感した。

学校紹介 ①

地域に誇りをもつ子どもの育成

新潟市立潟東小学校

新潟市立潟東小学校は、弥彦山・角田山の麓に広がる広々とした西蒲の平野に位置する学校です。旧潟東村の三小学校（東小・西小・南小）が統合し、平成二十八年四月に潟東小学校として開校しました。五年間を旧潟東南小学校の校舎を増設して過ごし、昨年四月に新潟市初の潟東中学校との小中併設校として、新しい校舎に移転して二年目です。地域の方々は学校への関心が高く、保護者や地域と連携しながら教育活動に取り組んでいます。

一 鎧潟の学習、カモノネギ祭りへの参画

潟東の地名は、今は埋め立てられた「鎧潟」の東に位置することから来ています。稲作が盛んなことはもちろんですが、古くからカモノネギが盛んで、十二月第一週には「かもん！カモノネギ祭り」が行われています。三年生で鎧潟の歴史を学び、猟友会の方からカモノネギについての話を聞きます。そして地域に誇りをもつ子どもたちを育てたいと、当校では、毎年、三年生がこの「カモノネギ祭り」に参画しています。



「みんなでつなごう！カモノネギの唄」の曲は、カモノネギ祭りのキャンペーンソングとして平成二十六年に作られました。当時の旧潟東三校の子どもたちが全校で歌い、その歌っている様子がカモノネギ祭りの際に放映されました。潟東小学校として開校した年から、りゅーとびあで開かれる新潟市内小学校の「にじいろ音楽祭」へ毎年この歌で参加しています。「カモン！カモン！カモノネギ祭り！」と掛け声や振り付けが入るこの元気な曲は、子どもたちのお気に入りです。元気な楽しい歌であり、聴く人に感動を与えます。潟東地域への愛情や誇りが歌詞に盛り込まれ、音楽の力も相まって潟東地域に誇りをもつ子どもの育成につながっていると感じます。



二 地域の歌で音楽祭に参加

一昨年度、潟東小のキャラクター「カーターくん」が誕生しました。鎧潟に自生していた「菱」がモチーフとして使われています。統合し校区が広がったため、八割の児童がスクールバス通学となり、日常的に歩くことが少なくなっていました。それを補うために、今年度から体力づくりに取り組んでいます。校内にたくさん貼ってあるカーターくんの中から「ラッキーカーターくん」を探して歩く取組です。「ラッキーカーターくん」は毎日変わります。異学年グループで一緒に探すこともあり、交流を深めることにも貢献しています。ラッキーカーターくんを見つけたことができた児童は、自分の身の回りの「ラッキーカー（うれしかったことなど）」をラッキーカー掲示板に投書し、お昼の放送で紹介されます。子どもたちはお互いのラッキーを聞き合い、それを認め合うことで、支持的風土の醸成にもつながっています。私たち職員も、子どもたちのラッキーカーを聞き、とても温かな気持ちになる取組です。体力アップの面でも少しずつ効果が上がってきています。



三 潟東小キャラクター「カーターくん」と体力づくり

3	3	2	1	10	10	8	7	6	5	4	4
・23	・4	・20	・19	・15	・1	・6	・20	・4	・7	・15	・4
令和四年											
入学式・教育実践学研究所 入学ガイダンス 令和三年度会計監査会 (アートホテル新潟) 第一回本部会											
【評議会に向けての議案 審議、決定】 ※書面による審議 評議会											
【令和三年度会務報告・ 決算報告】											
【令和四年度活動の重点 ・専門部活動計画・役員 及び予算案承認】 ※書面表決による審議											
教育新報「第183号」発行 カミングホームデイ (中止)											
第47回同窓生の集い (アートホテル新潟)											
全学同窓会交流会 (ANAクラウンプラザホテル)											
令和五年											
大学教職員と同窓会との 懇談会・懇親会 (アートホテル新潟)											
教育新報「第184号」発行 第二回本部会(実施予定) 卒業式											

(文責 校長 笹木 晶子)

## 学校紹介 ②

### 地域への誇りを持ち、 たくましい子どもを育む

#### 南魚沼市立おおまき小学校

当校は南魚沼市の中心部に位置し、四年前に大巻小学校と五日町小学校が統合して開校した新しい学校です。

校舎からは八海山や巻機山、谷川連峰を眺められる自然豊かな環境です。今年度、全校児童は百四十二名、九学級(特別支援学級三学級を含む)となっています。

保護者や地域の方々には、学校の教育活動に協力的で、学校行事だけでなく、日常の授業でも積極的にかかわってくださっています。

#### 一 地域の誇りを受け継ぐ稲作活動

学区の大巻地域は、「魚沼コシヒカリ栽培発祥の地」です。地域の方は、日本一の魚沼産コシヒカリに高い誇りをもって栽培しています。

当校では、グラウンド脇の学校田で稲作活動を五年生が中心となり全校体制で行っています。田植えではじ



まるのではなく、稲作サポーターの指導の下、種まきから行います。稲作サポーターからは、「稲作で大切にしていること」「どうしてこの地域がコシヒカリ栽培に適しているか」などを授業で話していただきました。稲作サポーターの話を聞く中で、子どもたちは地域への愛着と誇りをもっていきます。

稲刈りは全校で行います。収穫した米はおにぎりにして全校児童や保護者、お世話になっている地域の方々に配ったり、交流している深谷市の小学校にも送ったりしています。

#### 二 地域を生かした自然体験教室

自然体験教室を今年度から校区にある南魚沼森林公園(五日町スキー場内)天池教育キャンプ場でNPO団体「南魚沼環境・野外教育研究会」の全面協力を得て実施しました。

二日間に、次のような地域の人材を活用した体験活動が多数行われました。  
①ナタ・ナイフ体験  
研究会指導員の指導で、鉛筆削りから始めた児童も、最後には枝をとがらせるまで技術が上達しました。

#### ②森林作業体験

森林組合の協力を得て、木材伐採作業を見学しました。間伐の大切さや森を維持することの意味を学びました。



#### ③力ヌー体験

キャンプ場内にある天池で実施し、研究会指導員から指導を受けました。力ヌー初心者の子どもたちも、全員が一人で漕げるほど上達しました。

#### ④星空体験

理科センター専門員を講師に星空観察を実施しました。スキー場の中腹に上がっただけで、星空の見え方に大きな違いがあることを実感できました。

保護者・地域の方々には、将来を担う子どもたちのためなら、どんな協力も惜しみません。そんな保護者・地域の方々の協力を得ながら、今後も地域の誇りを受け継ぎ、地域を生かした教育活動を展開していきます。

(文責 校長 平澤 林太郎)

### 事務局だよ!

#### 会員の皆様への御礼とお願い

今年度もコロナウイルス禍のため十分な活動ができませんでしたが、大勢の会員の皆様に支えられ一年が終わろうとしております。今年度の会員数は、(10月末現在)

- ① 永年会員 (H22/R4) 3458人
- ② 学校・機関等会員 2165人
- ③ 個人会員 120人
- 合計 5743人 です。

同窓会に対して温かいご理解とご協力を賜りありがとうございます。さて、今年度は、三年ぶりの「同窓生の集い」及び全学同窓会交流会が開催されました。また、群馬県においても支部が立ち上がるなど嬉しい報告も届きました。

そこで、今後の活動が一層充実しますようにいくつかお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。  
①同窓会ファイルを作成するなど 確実な引継ぎをお願いします。  
②同窓会のホームページやメールの一層の活用をお願いします。  
③教育新報等が確実にお届けできるように住所等が変更になりましたらお知らせください。  
④永年会員資格の確認をお願いします。あくまで入学時に永年会費を納入し、会員証を受理した人が対象で、H22年以降の入学生すべてを指すものではありません。

学校紹介  
③

自己肯定感を高め、  
地域とともに歩む学校づくり

阿賀野市立水原中学校

当校は、阿賀野市の中央部に位置し、創立六十二年を迎えました。雄大な五頭連峰を背に白鳥が大空を舞う自然豊かな環境で活動しています。

全校生徒数四百七十二名、十九学級（特別支援学級五学級）の大規模校ですが、全職員で生徒一人一人に寄り添い、日々の教育活動を行っています。

現在、ほとんどの生徒が落ち着いて授業に臨み、学校行事や部活動では、大きな成果を残しています。地域の方が学校に寄せる期待も大きく、様々な教育活動に対し、温かな支援をいただいています。

一 自己肯定感を育む学校行事

九月は体育祭に向けて、生徒のパワーがあふれ、学校全体が熱く盛り上がります。三学年縦割りの五軍対抗で行われ、応援リーダーやパネル係は夏季休業中から準備活動を行います。各軍ともに試行錯誤しながら活動を進める中で、多くの生徒が、チームで物事を



成し遂げる難しさと喜び、自分の力を出し切った達成感を感じることができました。その姿を教職員、保護者、地域の方が認め、称えることで生徒の自己肯定感を育んでいます。

十月に行われる合唱コンクールも生徒を大きく成長させます。特に三年生の合唱にかける思いは格別です。コンクールの舞台で、三年生の思いを下級生が直に感じ、憧れをもつことでよき伝統が引き継がれています。

二 地域と共に歩む

昨年度スタートした「中庭創生プロジェクト」は、「学校をよくしたい」「生徒の思いと「生徒や地域を応援したい」地域の方々の思いを具現化する活動となりました

生徒会からの「生徒が和める中庭にしたい」という要望からスタートしたプロジェクトですが、実際の中庭整備活動には専門知識や予算が必要で、大人の協力が不可欠になります。そこで水原ロータリークラブとPTA、同窓会に協力を求め、支援をいただくことになりました。その後、生徒を交えた実行委員会を開催し、全校生徒から中庭整備のアイデアを募集しました。また、中庭を数年間かけて整備する

ことで「次年度以降の生徒に思いを繋げること、多くの生徒に関わってほしいこと」を生徒会から伝えました。

昨年度は、花壇と通路整備、玉ねぎの苗植え



を行い、今年度は六月に玉ねぎ収穫、十一月に芝生植えと花壇の植栽を行いました。参加生徒は、学年関係なく、協力して楽しそうに活動を進め、一緒に作業を行った地域の方々から多くの称賛の声をいただきました。生徒は確かな達成感や満足感をもつことができました。

三 小中一貫で取り組む学力向上

今現在の大きな課題が学力向上です。昨年度から中学校区のすべての小中学校で「学びの基礎力向上」をテーマに研修を進め、取組を共有しています。児童生徒の聞く力の向上、よい姿勢で授業を受けること、指導の可視化を図り、教師・児童生徒・保護者で目指す姿を共通理解すること、等を日々実践しています。その結果、授業に臨む態度が明らかに向上しています。

水原中学校は、今後も地域とともに、中学校区一体となって生徒の成長を支援する取組を進めていきます。

（文責 教頭 樋口 憲哉）

編集後記

コロナ禍で中止となっていた「第47回同窓会の集い」を3年ぶりに開催することができました。また、昨年度はリモートで開催した「全学同窓会交流会」も会場開催することができました。同じ空間で聞く生の講演は、臨場感と一体感を肌で感じることで、今更ながらに人とのふれあいをも実感することができた素晴らしい会となりました。教育新報では、この2年間、「同窓会の集い」を始めとする様々な講演会や集いの様子をお伝えすることができず、とても残念に思っていました。しかし、その代わりに、「先輩を訪ねて」や「教職大学院生1年目の実践報告」などの素晴らしい企画も生まれました。

これからも、これまで行ってきた内容を大切にしつつも、新しい企画や取組に着手しながら、同窓会員の皆様が楽しみにしてください。引き続き「教育新報」を続けていきたいと思っております。

（文責 広報部長）